

被災地 NGO 協働センター2013 年度事業報告

【事業概要】

1. 寺子屋事業
2. まけないぞう事業
3. 災害救援事業
4. 提言(アドボカシー)・ネットワーク事業
5. 広報活動
6. その他

【事業内容】

1. 寺子屋事業

2013 年度は、前々年度・前年度から引き続き、「フクシマ」をテーマにした寺子屋を開催した。また、第3回は若者編として、神戸の若者と福島の若者の意見交換を行った。

・Peace 寺子屋セミナー3回シリーズ

第1回(6/14)「チェルノブイリとフクシマのいま～ハンストから1年を振り返って」

講師:佐藤健太(一般社団法人ふくしま会議理事/まげねど飯館! 常任理事)

第2回(9/24)「東電福島第一原発のいま…」

講師:木村信行(神戸新聞社会部記者)

第3回(11/25)若者編「～福島のことを一緒に語ろう～」

講師:鎌田千瑛美(一般社団法人ふくしま連携復興センター理事/Peach heart 共同代表/ふくしまキュン♡キュン♡の大学学長/せんきょ camp ふくしまメンバー/ふくしまの声ライター)

2. まけないぞう事業

昨年同様1～2か月に1度2～3週間遠野に滞在をしながら、岩手県中心に「まけないぞう」事業を展開。現在の作り手の人数は81人となった。

3年の節目を迎えた被災地では、阪神・淡路大震災と同様に、不安や孤独がピークになり体調を崩す人や自ら命を落とす人も少なくない。「10日現在、警察庁によると、震や津波による直接死は15,884人、行方不明は2,633人、震災関連死は毎日新聞のまとめで10都府県3,048人に達し、福島県では直接死を上回った。」(2014年3月11日毎日新聞)、「東京電力福島第1原発事故に伴う避難で体調が悪化し死亡した事例などを、本紙が独自に「原発関連死」と定義し、福島県内の市町村に該当者数を取材したところ、少なくとも1,048人に上ることが分かった。昨年3月の調査では789人で、この1年間で259人増えた。事故から3年がたっても被害は拡大し続けている。」(2014年3月10日東京新聞)とこのように両紙は伝えている。これ以上犠牲者を出さないように、いま私たちができることを一つひとつ丁寧に確実にやっていかなければならない。

まけないぞうが上記の事象を少しでも回避できるものとして、これまでの実績を踏まえ、活動してきた。支援者か

らのメッセージを以下に紹介する。

いつも「まけないぞう」をご購入させていただいております。福島県郡山市に住んでおります。東日本大震災での原発事故での放射能の影響で、一緒に住んでいた娘家族とは離れ離れとなってしまいました。様々な不安と悲しみの中、Facebook で「makenaizone」に巡りあい、どれだけ勇気づけられたか…。

そこで「まけないぞう」の存在を知り、それを広めることで、まさしく「生きがい」を見つけたような気分になりました。

現在、夫と共に自動車販売を営んでおり、納車の際のお客様の粗品と一緒にぞうさんをさしあげて、お客様に喜ばれております。少しでもお力になればとわずかですがタオルをお送り致します。(福島県より)

『「まけないぞう」を作っている方へ。私は病気ですが「まけないぞう」と思って頑張っています(笑)「まけないぞう」さんが届くのを楽しみにしています』ありがとうございます。(福岡県より)

一方、作り手である被災者の方は、「ゆったりできる時間にぞうさんをつくり、それまで夜眠れないことが多かったですが、ぞうさんを作るようになってから、眠れないことがなくなった。ぞうは家族です」と。また別の作り手さんは「名前が『がんばるぞう』ではなく『まけないぞう』というのがいい。」「これ以上何をがんばるの?まけないぞうなら勇気を持って生きて行ける。津波後、ぞうを作ることで時間を忘れる。タオルをくれた人、作る人、買う人がいてみんながつながっている。『ぞうは家族』『お嫁に行かせる気分』です。」と話してくれている。まさに「まけないぞう」が被災者にとって、明日への希望に繋がり、生きがいとなってきた。

(A) 東日本大震災支援の継続

2013年度も継続的に東日本大震災の支援を行った。売り上げは落ちてきているが、作り手さんは「生きがいになっている」とおっしゃっており、一人ひとりに寄り添う活動となってきた。作り手さんにとっては、かけがえのない“しごと”となった。

(B) 広報・販促に関して

まけないぞう専用サイトなど、HPの拡充に取り掛かった。

(C) 被災地ツアー

スタッフが東北入りする際に数名のボランティアと一緒に参加してもらい、被災地の課題や被災者との触れ合いをしてもらった。

・実績:20,293頭出荷(うち子ぞう・親子ぞう・リングぞう・カップルぞうは4,624頭)

- ・作り方講習(岩手県は省く)
- 8/25 東日本大震災復興・帰還促進事業(埼玉・NPO 災害支援団体支援ネットワーク)
- 9/22 東日本大震災復興・帰還促進事業(東京・NPO 災害支援団体支援ネットワーク)
- 2/7 朝来市立山口小学校(兵庫)
- 2/15 笑顔つながろう会(京都) 福島県からの県外避難者の会
- ・回収、作り方講習会(岩手県遠野市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市など)
- 4/22～5/9、6/25～7/9、7/29～8/23、9/5～9/9、9/30～10/24、11/28～12/8、2/24～3/17
- ・まけないぞう報告会・販売等
- 4/16 第5回復興グッズ被災地グッズ主宰団体連携会議(盛岡)
- 5/8 第6回復興グッズ被災地グッズ主宰団体連携会議(盛岡)
- 5/24 神戸大学学生ボランティア支援室との打ち合わせ
- 5/29 コープこうべ第4地区きずなプロジェクト講演会
- 6/02 灘チャレンジ2013にて販売(神戸)
- 6/29～7/2 第2回川徳絆フェア(盛岡)
- 8/22 アーユス関西のバザー 瑞龍寺にて販売(神戸)
- 10/7～6 高槻ジャズとグルメフェアでの販売(高槻)
- 10/13～14 長崎 LOVE フェスにて販売(長崎)
- 10/25 アーユス関西のバザー 南御堂にて販売(大阪)
- 11/26 とんだばやし人権セミナー(大阪)
- 1/9 ぎやらりー侑香(神戸)
- 2/12 神戸大学東北ボランティアバスとのまけないぞうミーティング
- 2/13 全日本仏教婦人連盟大会に参加(東京)
- 2/23 コープみらいきゃっせ2014での販売(千葉)
- 3/19 東京大学似田貝名誉教からヒアリング(神戸)

3. 災害救援事業

1) 国内災害に関する救援・復興・提言活動

(A)東日本大震災

まけないぞう事業は引き続き、神戸からのサポート体制を継続した。また、東京大学被災地支援ネットワーク(以下・支援ネット)との連携は引き続き継続し、足湯ボランティアの集めるつぶやき分析作業を震災がつなぐ全国ネットワークの一員として共同で行ってきた。また、KOBE足湯隊を東北に派遣し、足湯ボランティアを実施した。

※まけないぞうの記録はまけないぞう事業の項を参照

- 4/5 東大・日本財団打ち合わせ
- 5/14 支援ネットつぶやき分析作業
- 5/21 支援ネットつぶやき分析作業
- 5/21 東日本大震災支援全国ネットワーク総会参加
- 5/27 JICA 報告会参加
- 6/24 SeRV 米川氏ヒアリング
- 7/19 東大特別研究会参加
- 8/1 岩手県遠野市へ 佐々木麻奈子さん宅を訪問

- 8/15 福島県にて島田誠氏・赤坂憲雄氏対談に同行
- 3/18 足湯ボランティアに伴う“つぶやき”に関する出版についての打ち合わせ(東大被災地支援ネット)

(B)その他、災害発生時の対応

2013年度は災害が多発し、68か所で災害ボランティアセンターが開設された。当センターでは、スタッフの頼政を震災がつなぐ全国ネットワーク若手幹事会のメンバーとして、他団体と連携しながら被災地へ派遣した。また、その他のメンバーも災害ボランティアとして、現地での活動を行った。

- ・山口県山口市水害派遣
7/30～8/6、8/13～16、8/19～21(頼政)
- 8/5～7(上野+神戸大生)
- 8/9～11(上野、吉椿、大西、杉崎)
- ・京都府福知山市水害派遣
9/22～23(頼政)

(C)KOBE 足湯隊の活動

当センターが事務局を務める「KOBE 足湯隊」は、主に能登半島(2007年地震発生)・兵庫県佐用町(2009年水害発生)など地震や水害の被災地に出かけてきた。同足湯ボランティアは、2010度から神戸学院大学を初めとする「ポーアイ4大学連携事業」として、佐用町へ15人程度の大学生(神戸大学、神戸女子短期大学、神戸学院大学)が年に2回入った。

東日本大震災では、神戸大学東北ボランティアバスのメンバーが被災地での足湯ボランティアを継続して行い、またKOBE足湯隊としても活動を行った。

また、災害発生時には被災地に駆けつけ、避難所等での足湯ボランティア活動を含む災害ボランティア活動を行った。

- ・ミーティング:4/19、5/23、6/11、7/7、7/16、10/6、11/6、12/2、1/18、2/15、2/24、3/13
- 6/2 ポーアイ4大学連携事業 佐用町足湯ボランティア
- 6/25 足湯隊打ち合わせ
- 7/18 神戸大学東北ボランティアバス 足湯講習会
- 7/28 佐用町での活動
- 8/17～18 足湯隊合宿
- 8/27～28 萩市の縁日での足湯ボランティア
- 9/18～21 お熊甲祭りに参加
- 11/10 全国足湯ボランティア交流会の打ち合わせ
- 11/30～12/1 山口大学 足湯ボランティア講習会
- 12/6～8 全国足湯ボランティア交流会
- 1221～23 能登派遣
- 1/25 イザ!美カエル大キャラバン前夜祭
- 1/26 イザ!美カエル大キャラバン
- 2/3 (神戸学院大学)足湯研修について兵庫県佐用町社会福祉協議会との打ち合わせ
- 2/18 神戸学院大学との打ち合わせ
- 3/7～12 岩手県での足湯ボランティア活動

3/21 能登半島派遣報告会

(D) 南海トラフ巨大地震に対して

南海トラフで予想される巨大地震に備えて、西日本地域での防災教室や訓練などに関わり、ネットワークを作ってきた。特にたつの市で発足した「女性が担う地域防災塾」の活動には積極的に参加した。また、アユス関西と連携した防災寺子屋の活動も行った。

また、普段連携しているCODE 海外災害援助市民センターのチリ高知交流事業に参加させてもらうことで、高知県黒潮町などのつながりを作ることが出来た。

7/26 アユス関西 防災寺子屋の打ち合わせ

9/1 女性が担う地域防災塾

10/30 アユス関西 防災寺子屋図上訓練

10/31 女性が担う地域防災塾 図上訓練

12/9~13 チリ高知交流事業に参加

2/16 女性が担う地域防災塾で講義

2/20~21 広域大規模災害時のボランティア活動の体制検討ワークショップ in 高知に参加

2/22 高知県黒潮町役場の方と交流

(E) 報告会の開催

7月27日に「若者の視点から見た東日本大震災を考える」シンポジウムを開催した。神戸大学東北ボランティアバスのメンバーや不良ボランティアを集める会からも報告をしてもらった。

(F) KIT つながるプロジェクト

東京の大学生の集まり【KIT つながるプロジェクト】による気仙沼スタディーツアーの引率を行った。この事業は日本財団学生ボランティアセンターからの委託事業。

・ミーティング(4/4、5/2、5/9、5/16、5/22、6/4、6/18、6/26、7/3、7/17、7/23)

・下見(5/17~19、6/28~30、8/7~9)

・本番 8/22~25

2) 海外災害に対する緊急救援活動とその後の復興へつなげる支援活動

当センターはCODE 海外災害援助市民センターの事務局をサポートしながら、震災の経験を伝え、痛みの共感をし、お互いに学び合い、海外の災害救援を通して、支えあいの輪を広げてきた。2013年度も東日本大震災への支援活動などで多大なご協力をいただいた。なお、スタッフの頼政がCODE 海外災害援助市民センターに同行する形で、フィリピン台風現地調査に参加した。

・フィリピン現地調査(11/15~11/24)

4. 提言・ネットワーク事業

2012年度から引き続き東日本大震災の支援活動として、まけないぞうと足湯を通しての提言活動を行ってきた。2つの活動とも、支援ネットと連携し、活動の持つ意味合い

が確立されつつある。

そして、2013年度で9回目を迎えた「東海地震に備えた図上訓練」での災害ボランティアネットワークには引き続き関り続けている。

また、震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)にも引き続き加盟団体・若手幹事会のメンバーとして関わった。実際に災害が発生した際にはこうしたネットワークを活用した活動を行った。

・震つな若手幹事会

(4/11、4/25、4/30、5/13、5/15、12/28)

(A) ネットワーク事業(静岡図上訓練・震つな含む)

4/8 しみん基金 KOBE 四役会議(村井)

4/10 日本財団春の交流会(頼政)

4/17 震つな情報交換会 in 秋保(宮城県)(頼政)

4/24 静岡図上訓練 WG 振り返り(頼政)

5/7 震つな四役・若手幹事会会議

5/7 全日本仏教青年会 全国大会に参加(吉椿)

5/15 しみん基金 KOBE 理事会(村井)

5/25 震災がつなぐ全国ネットワーク第16回総会

5/26 震災がつなぐ全国ネットワーク移動寺子屋 in 長野

6/7 津久井弁護士との打ち合わせ

6/8 被災地 NGO 協働センター総会

6/14 脱原発ハンガーストライキ 1年達成

6/18 長野県栄村小滝村調査(村井)

6/20 世界宗教者平和会議 世界難民の日シンポジウム参加(村井)

6/22 次の世代のために今を見直す会『シェーナウの想い』上映会に参加(村井)

6/27 学生ボランティアと語る座談会(頼政)

6/27 日本災害復興学会理事会(村井)

6/30 兵庫県原発被災者支援 集団提訴説明会に参加(村井)

7/23 徳島県弁護士協会から東日本大審査についてのヒアリングを受ける

7/24 東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会(村井)

7/24 しみん基金 KOBE 理事・審査員合同会議(村井)

8/31 第56回日本弁護士連合会 人権擁護大会プレシンポジウム『区域外避難者は今』に参加(村井)

9/10 第2回災害ボランティアネットワーク委員会(村井)

9/14~16 水俣研修旅行

9/18 しみん基金 KOBE 理事会(村井)

9/19 コープこうべ災害緊急支援基金(村井)

9/22 ふくしまととくしまをつなぐ未来ダイアログ(村井)

10/1~2 『検証！東日本大震災「支援の隙間にいる被災者」に向けたボランティアのアプローチを考えるワークショップ』(頼政)

10/5 神戸 YMCA 服部良一氏『いもづる』に参加(村井)

10/11 安田節子氏『わが子からはじまる食べ物と放射能のはなし』に参加(村井)

10/12 日本災害復興学会(頼政)

10/13 日本障害者歯科学会『大災害時の障害者支援を考える』シンポジウムに参加(村井)

10/16 神戸女学院大学『3.11ここに生きる』上映会(村井)

10/16~18 全国社会福祉協議会主催 平成 25 年度災害ボランティアセンター運営者研修(頼政)

10/25 全日本仏教婦人連盟 60 周年記念大会

10/27 震つな定例会@名古屋

10/27 徳島県再生エネルギーツアー見学会参加(増島)

10/28 しみん基金 KOBE 公開審査会(村井)

11/23 関西×東北学生サミット 2013@京都(増島)

12/5 内閣府防災ボランティア活動検討会(頼政)

12/9 東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会(村井)

12/22 北野正一氏『神戸の地場産業—ケミカルシューズ産業 灘の酒造業の 20 年』に参加(村井)

1/11 3.11 から 1.17 へ ~若者たちが語り合う震災と未来~

1/12 日本災害復興学会理事会(村井)

1/12 日本災害復興学会全国被災地交流集会

1/13 2014 年復興・減災フォーラム「社会が許容するリスクとは—利益相反する復興を考える」

1/18 南三陸を舞台にした映画『うたごころ』鑑賞(村井)

1/23 第 7 回災害対策セミナー「震災技術展」参加(村井)

1/28 兵庫県佐用町より 2009 水害ボランティアに関するヒアリング(村井)

1/29 平成 25 年度ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク第 3 回常任委員会(村井)

2/10 しみん基金 KOBE ワークショップ(村井)

2/21 しみん基金 KOBE 理事会(村井)

2/23 第 1 回灘チャレンジ 2014 地元委員会(頼政)

2/23 ブレーンヒューマニティ 20 周年記念パーティに参加(村井)

3/1~2 第 9 回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

3/5 東日本大震災生活復興・兵庫フォーラム参加(頼政)

3/22 内閣府防災ボランティア活動検討会(頼政)

3/27 神戸大学東北ボランティアバス活動振り返り(頼政)

3/30 第 2 回灘チャレンジ 2014 地元委員会(頼政)

(B) 講義・講演活動

4/23 中央大学での講演(村井)

6/14 大阪ボランティア協会主催防災フェアで講演(村井)

6/24 読売新聞新人研修(村井)

7/15 大分大学 足湯ボランティア研修の講師(頼政)

8/26 日本心理臨床学会での報告(頼政)

10/28 松陰女子学院大学での講義(村井)

12/25 三重県特別支援教育研究会主催『災害時における学校現場の役割』で講演(村井)

2/1 平成 25 年度「災害ボランティアこころのケア講座」(兵庫県心のケアセンター)講義(村井)

2/13 日本防災士機構「災害ボランティア講座」講義(村井)

井)

3/8 日本防災士機構「災害ボランティア講座」講義(村井)

3/11 東日本大震災 3 年を迎え、FM 福岡に出演(村井)

<関係団体・グループとのネットワーク>

- ・しみん基金 KOBE/副理事長
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク/団体会員
- ・人と防災未来センター/事業評価委員
- ・神戸再生フォーラム/共同代表
- ・日朝兵庫友好の会/常任委員
- ・レスキューストックヤード/評議員
- ・CODE 海外災害援助市民センター/理事
- ・日本災害復興学会/会員
- ・内閣府防災ボランティア活動検討会/メンバー
- ・関西学院大学災害復興制度研究所/外部研究員
- ・東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク委員会
- ・9 条の会ひょうご
- ・避難・移住・帰還の権利ネットワーク
- ・KOBE ピース i ネット
- ・神戸大学/非常勤講師
- ・福井大学/非常勤講師
- ・神戸松陰女子学院大学/非常勤講師
- ・日本防災士機構/講師

4. 広報事業

会員間の連携と協働の充実を図るとともに、被災地内外の関係団体、支援者への情報発信を行った。

- ・じやりみち 4 回発行(各約 1000 部)
- ・HP の充実化については、活動レポートやニュースを即日ブログにアップすることにより、HP や Facobook をほぼ毎日更新してきた。

5. その他

(A) 脱原発ハンガーストライキ

2012 年度から継続して脱原発ハンガーストライキを「原発が停止するまでやり遂げる覚悟」持って今日まで続けてきた。

(B) 阪神・淡路大震災から 20 年 KOBE 市民と NGO フォーラム 2015

阪神・淡路大震災から 20 年を迎えるにあたって、次世代に何を伝えられるのかを議論してきた。最終的な表現方法は現在検討している段階。

- ・ミーティング(5/24、7/24、9/11、11/7、12/27、1/30)
- ・振り返りまとめ(6/6、7/26)

(C) ボランティア受け入れ

原田・小原・中原・市野…(6/4、11/20、2/6、2/12、2/20、3/26)